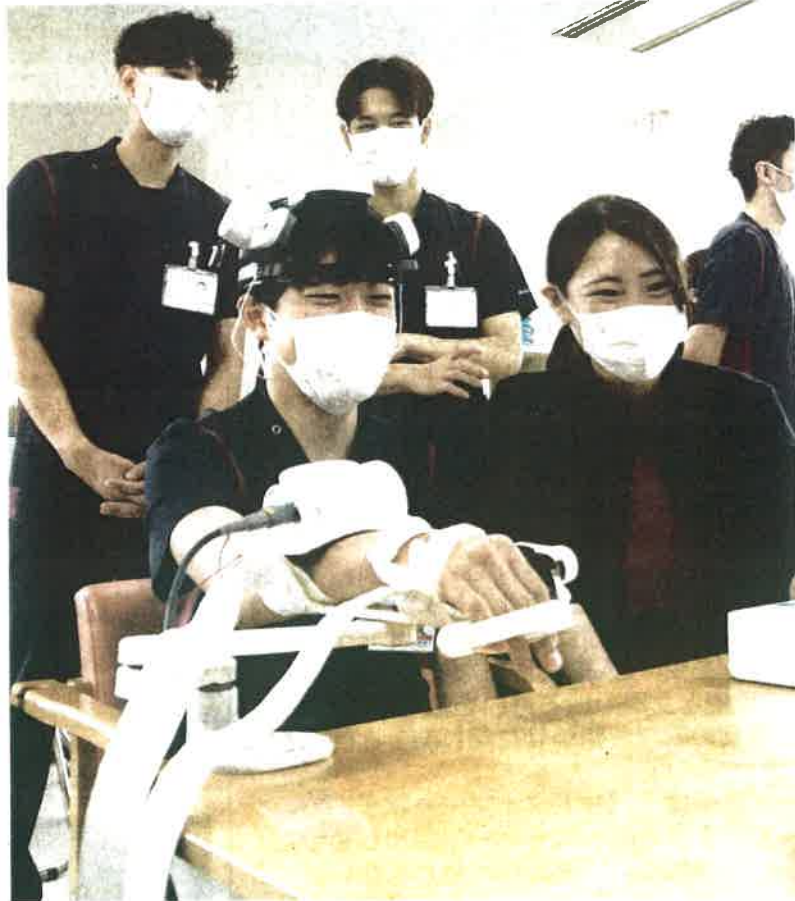


「指よ動け」脳波捉え刺激

医療用BMI | 九州初導入

鹿児島・田上記念病院 後遺症回復へ



医療用BMI | を体験する理学療法士ら

脳卒中で手や指に後遺症が残る患者の治療にっ
なげようと、鹿児島市西別府町の田上記念病院が、
脳科学と人工知能（AI）を融合させたリハビリ
機器を導入した。「医療用BMI（ブレイン・マ
シン・インターフェース）」と呼ばれるもので、
導入は九州の病院では初めて。手指を動かしたい
と考えた時の脳波を捉え、筋肉を電気刺激するこ
とで効果的な回復が見込まれるという。

（小林末南）

「リラックスしてくださいね」。同病院で6月上旬、
患者へのリハビリを支援す
る理学療法士や作業療法
士ら12人が医療用BMI
の使い方を学んでいた。ヘ
ッドセットを装着した参
加者が脳波を確認しなが
ら集中すると、脱力した指

先がゆっくりと上がった。
理学療法士の豊見本数磨さ
ん(22)は「ひじの筋肉を収
縮させるイメージを持つ
と、ビリビリとした感覚と
ともに指が上がった」と話
した。

医療用BMIは慶応大が
研究し、同大発のスタート
アップ企業「LIFESCAPES
APES」（東京）が6月
から販売を始めた。脳卒中
による後遺症で手指がうま
く動かせない患者向けに作
られ、頭にヘッドセット、
手に電動装具を装着して使
用する。

患者が「指よ、動け」な
どと筋肉の運動をイメージ
すると、脳波を読み取った
ヘッドセットが損傷した脳
部位を使わない神経経路を
活性化させる。それと同時
に電動装具が手指に電気刺
激を送り、指先の運動を促
す仕組みだ。

脳波のデータはタブレッ
ト端末に送られグラフ化さ
れる。指を動かす運動時と、
リラックスする安静時の脳
波の振幅具合などが可視化
でき、患者にはデータを見
ながら運動時の感覚をつか

んでもらうという。

同病院リハビリテーショ
ン部の川上剛部長(46)は
「（医療用BMIで）手指
を動かすイメージをつかん
でもらうことで、いろいろ
なりハビリにつなげていき
たい」と期待を寄せる。

LIFESCAPESの
林正彬・執行役員(29)は
「医療用BMIによる脳か
らのアプローチで重度のま
ひを治療することができ
ようになった。今後も機器
を必要とする患者や医療従
事者に届けたい」と話した。